

令和5年農業産出額（広島県）について

1 要旨

令和6年12月24日に農林水産省が公表した、令和5年農業産出額（都道府県別）における広島県の概要を報告する。

2 概要

(1) 調査期間

令和5年1月から令和5年12月までの1年間。

(2) 前年との比較

ア 全体

広島県の令和5年農業産出額は、米、野菜、畜産の各分野において、産出額が増加するとともに、野菜及び畜産の産出額は、それぞれ過去最高となり、前年（1,289億円）と比較して159億円増加し、1,448億円（12.3%増）となった。

イ 分野別

(ア) 米

主食用米の需要が堅調に推移するとともに、民間在庫量が減少し米価が上昇したため、前年（229億円）と比較して18億円増加し、247億円（7.9%増）となった。

(イ) 野菜

県内の主要品目は概ね順調な生育状況であったが、他県主要産地ではトマトやねぎ等の品目において、8月から9月にかけて生じた高温・少雨の影響により生産量が減少し、全国的に価格が平年を上回って推移したことから、前年（271億円）と比較して24億円増加し、295億円（8.9%増）となった。

(ウ) 果実

柑橘では、みかんの出荷量が減少する中、収益性の高いレモン等の中晩柑類へ転換が進んだ。

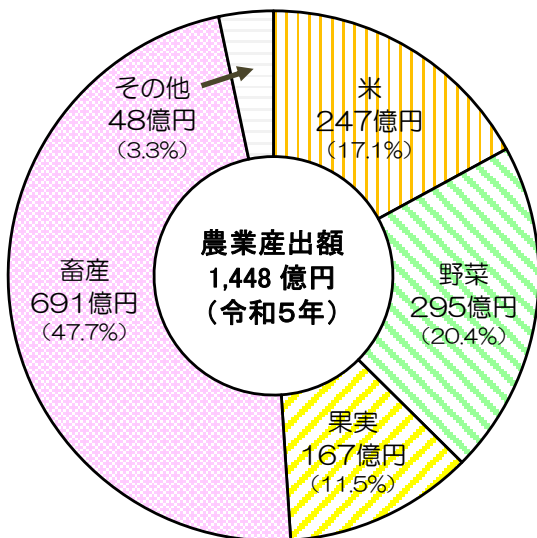
また、なしは高温・少雨の影響により生育不良だったものの単価が上昇したことに加え、ぶどうの生育が順調であったため、前年（165億円）と比較して2億円増加し、167億円（1.2%増）となった。

(エ) 畜産物

鶏卵については、令和4年度に発生した高病原性鳥インフルエンザの影響により、生産量は減少したが、需要の高い状態が続き高値で推移したことから、前年（284億円）と比較して77億円増加し、361億円（27.1%増）となった。また、肉用牛については、国の増頭支援事業等により生産頭数が増加したものの、和牛肉の需要が軟調に推移し価格が低下したこと等の影響により、前年（83億円）と比較して6億円減少し、77億円（7.2%減）となった。

なお、畜産物全体の産出額については、前年（582億円）と比較して109億円増加し、691億円（18.7%増）となった。

【農業産出額内訳】



【品目別産出額上位 10 品目】

	品目	産出額	(参考) 令和 4 年
1 位	鶏卵	361億円	284億円 (1 位)
2 位	米	247億円	229億円 (2 位)
3 位	豚	146億円	120億円 (3 位)
4 位	肉用牛	77億円	83億円 (4 位)
5 位	生 乳	59億円	59億円 (5 位)
6 位	ね ぎ	48億円	41億円 (7 位)
7 位	トマト	44億円	44億円 (6 位)
8 位	みかん	40億円	38億円 (8 位)
9 位	ぶどう	39億円	37億円 (9 位)
10 位	ほうれんそう	23億円	22億円 (10 位)

※ 色付きの品目は、前年度から増額となっているもの

3 農業産出額の推移

平成 22 年まで、米の産出額の減少に伴って全体の産出額は減少傾向であったが、野菜、果実及び畜産の産出額の伸びにより、増加傾向に転じている。

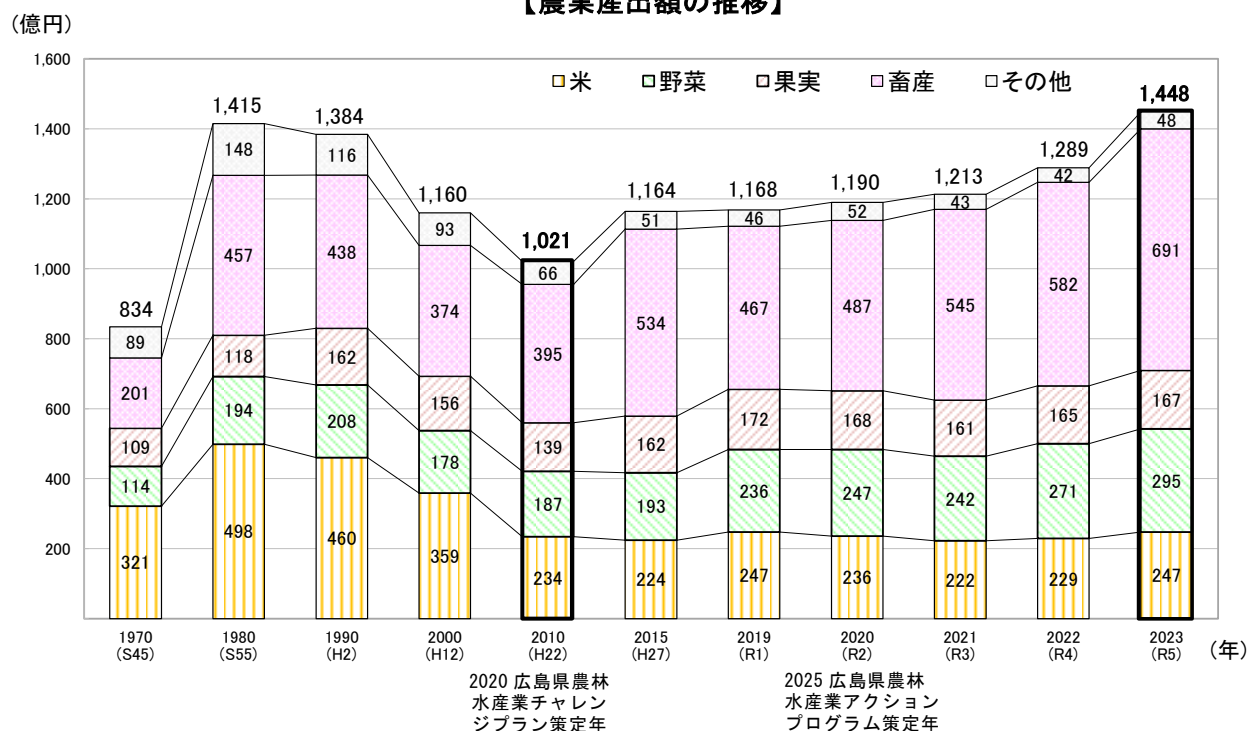
野菜の産出額は、平成 22 年の 187 億円から 295 億円（対 2010 年比 57.8%増）、果実の産出額は、平成 22 年の 139 億円から 167 億円（対 2010 年比 20.1%増）となり、畜産についても平成 22 年の 395 億円から 691 億円（対 2010 年比 74.9%増）となった。

農業産出額全体では、平成 22 年の 1,021 億円から 1,448 億円（対 2010 年比 41.8%増）となっている。

また、2025 農林水産業アクションプログラムにおいては、畜産を除く「農業生産額」を指標として設定しており、令和 5 年度の目標値 728 億円に対し、実績は 757 億円となった。

なお、令和 4 年から 5 年の農業産出額の大幅な増加は、各品目の単価高が影響している。

【農業産出額の推移】



《参考：全国における農業産出額の推移》

(兆円)

